



ご本人は「ただの腰痛」とおもいこんでいたのですが、余りの痩せようと顔色にまわりの人が心配し、2月17日、しぶしぶ病院へ。その場で余命1～2カ月と知らされました。病名はすい臓がん、それもいくつもの臓器に転移し末期症状。この日は剛さんの誕生日でした。

20日までに、仕事関係の整理をすませ、「かえりみなかった家族と過ごすつもり。手術も抗がん剤治療も間にあいませんので、自宅でその日まで前を向いて生きていきます」とのことでした。

## 小山剛さん 60歳の遺言

お聞きおよびのとおり、まさか～の状態になっております。不摂生とか働き過ぎとか言われるのですが、これは見つかった時に手遅れがわかるという予測不能な疾病らしいです。幸いにも性格が後ろを向かないタイプですからなんとかなっています。

小規模の創設、楽しかったですね～、毎日がドキドキワクワクの楽しいチャレンジの連続でしたし、本当に素晴らしい仲間たちとの出会いに感謝・感謝です。「みんなでいい事を言いながら赤字に苦しむ会」なんて、そうそうありませんよ。

でも、つよがりとやせ我慢のおかげでこんなに広がりましたし、これからも中心になる素晴らしい事業だと思います。

私はもう活動できませんが、その分皆さんが活躍していただけるものと期待しています。

本来であればこれでもかと深酒をしてきたこちらからあいさつに伺わなければなりません。それもかないませんし、体力がもちそうにもありませんのでメールで失礼します。

(2月21日メール)

平成27年3月13日午後2時47分逝去